

CONFORT

海道・ニセコ ショウヤ・グリッグの美学

まいに込められたもの 早草睦恵/木村吉成+松本尚子

互方と此方をつなぐ場所 Loveit(益子)/弱法師(京都)

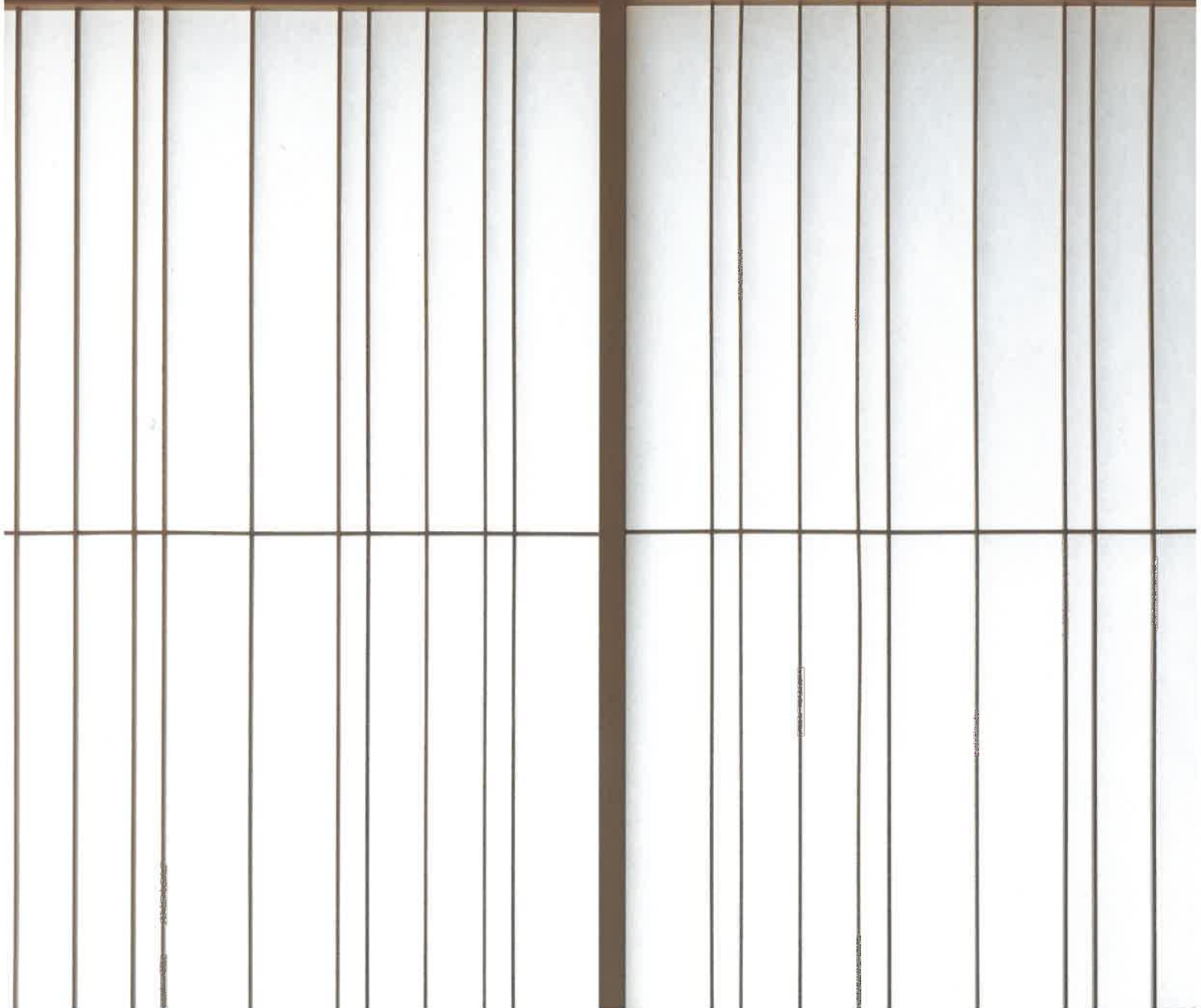
幸福の場をつくる——京のギャラリー 木村優/村川美紀/中村菜穂子 中村昌彦 藤原洋司 ハタノワタル

本のエスプリ——素材と技 細尾(京都)/タニハタ(富山)/エクシズ(多治見)/檜創建(中津川)

N^{o.} 166
2019 February

集 和やかな普請

Buildings with Japanese Spirit



予測不可能な光に惹かれます マイケル・アナスタシアDESIGNタビュール

インタビュール文／植本絵美



円形やティアドロップ形など9つのパーツを自由に組み合わせられる新作のArrangements (アレンジメント)。「Make your Arrangements」というユーザー向けアプリも用意されており、画面上で組み合わせをシミュレーションできる。¥88,000~165,000 (別途、ローゼット¥40,000とドライバ¥59,000が必要)。日本フロス tel 03-3582-1468 <http://japan.flos.com>



マイケル・アナスタシアDESIGN
Michael Anastassiades
1967年、キプロス生まれ。ロンドンで土木工学と工業デザインを学ぶ。94年、ロンドンにデザインスタジオを構え、2017年には自身の照明ブランドを設立。

デザイナーのマイケル・アナスタシアDESIGNは、『予想もつかないことに強く惹かれると言う』。「自然の光はどのような状況でもそれぞれに味わいがあります。ただしそれは自然環境とは限りません。たとえば、都会で見る鮮烈な夕陽。それは残念ながら大気汚染の影響かもしれない。それでもそんな制御できない様相に、私は美を見出すのです」彼は2014年にフロスから発表した「LICHTS」で世界的に注目を集めた。究極を感じさせるような最小限の要素から成るデザインはアートピースのようだと評価される。「私は照明をデザインする際、予測

不可能な自然の光を徹底的に研究し、光を放つ原点まで立ち返ります。ただし、自然の光を復元することが重要だと考えてはいません」

2017年に同社から発表した新作「アレンジメント」も、『想定外』を楽しむものだ。ジュエリーから着想したもので、「ペンダント」という言葉が照明とジュエリーの2つの意味を持つのは必然と考えました。ジュエリーは人を美しく、天井から下がる照明は空間を美しく照らすからです。大小の円や正方形、ティアドロップ、直線といった9つの幾何学パーツを自由に組み合わせるモジュール型のシャンデリアで、ユーザーによって思いもよらないデザインが生まれる。

各パーツには1または2カ所のジョイントがあり、連結によって通電する仕組みで、フロスはこの技術で特許を取得。「今回も、フロスの技術開発なしでは完成しなかった」と振り返る。「とはいえ、テクノロジーが先導してはいけません。まずは、デザインが方向性を示すべきです」。

彼のデザインには幾何学的な要素が多分に見られるが、それについては「自然界にも幾何学的要素が多く存在する。デザインにもそれを織り込むことで、親密さを感じてもらいたい」と語る。さらに、大学で土木を専攻していたことが図らずも影響していると言っている。「私は複雑さ

を匂わせるものが苦手です。私にとって数学的アプローチとは、物事をシンプルにしていくなかで一つの手段なのです。だからこそ、私の手がけるデザインの多くは、一連のシリーズとして構築されています」。

それは彼の「1メートルを基本モジュール」とし、それを2分の1、3分の1と正確に分割して方法論とする考えにもつながる。

「アレンジメントはパーツ同士のバランスも大切にし、どの組み合わせでも美しくなるようにデザインしました。鍵となったのは、いかに緊張関係をつくりながら実現させるかということでした」

その際これまでの均衡は奇跡的とさえ思える。それと同時に、人に対して圧迫感や威圧感を与えないことも常に心掛けているとして、空間や人との距離感など、他との対比から照明器具のサイズやプロポーションを導き出すと言う。

求道者のごとくシンプルを追求するさまは、一つひとつの質問に誠実に答えようとすると姿勢からも十分に伝わってくる。今のようにブランドから作品を発表する以前は、展示会の費用も自ら負担し、ヨガの講師をして生計を立てていたこともあったそう。彼にとってデザインとはピュアな存在であり、だからこそ実直なまでにストイックであり続けるのだろう。